



加古川における「フジバカマ」のCSRと
連携した自然再生

姫路河川国道事務所
調査課 梶本 秀樹

発表内容のポイント

- ①加古川の直轄管理区間では、平成25年に策定した加古川自然再生計画書に基づき、自然再生事業（わんど・たまりの再生等）を実施中。
- ②地元企業のCSR活動や小野市・地元団体の活動として、国の自然再生事業によって再生したわんどにフジバカマの植栽を実施。
- ③今後の植栽や自然再生事業に活用するため、生息箇所環境条件の調査を実施。

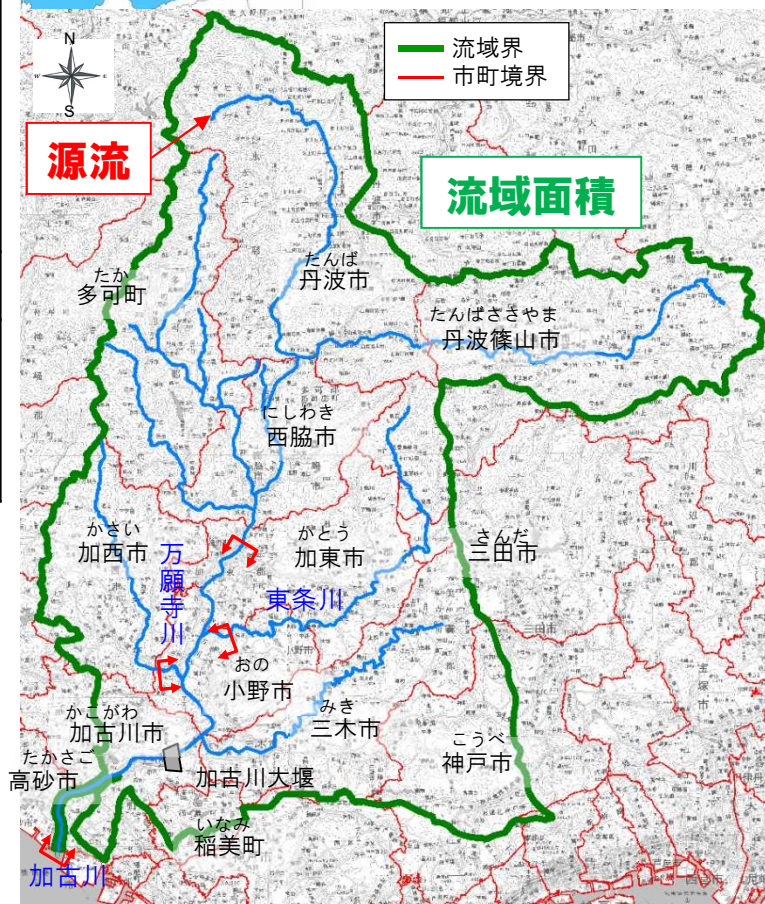
目次

1. 背景
2. 地元企業のCSR活動との連携
3. 小野市・地元団体との連携
4. 生息地の環境条件の整理
5. フジバカマの生育地保全に向けて

1. 背景

■加古川水系について

流域面積	約1,730km ²
流路延長	約96km
源流	兵庫県粟鹿山
流域市町	11市3町 神戸市、加古川市、高砂市、三木市、 加西市、西脇市、小野市、三田市、篠 山市、丹波市、加東市、多可町、稲美 町、播磨町
流域内人口	約60万人
流域内の産業	中流部：染色・金物・そろばん 河口部：重化学工業 (播磨臨海工業地帯)



1. 背景

■加古川自然再生計画書について

○概要

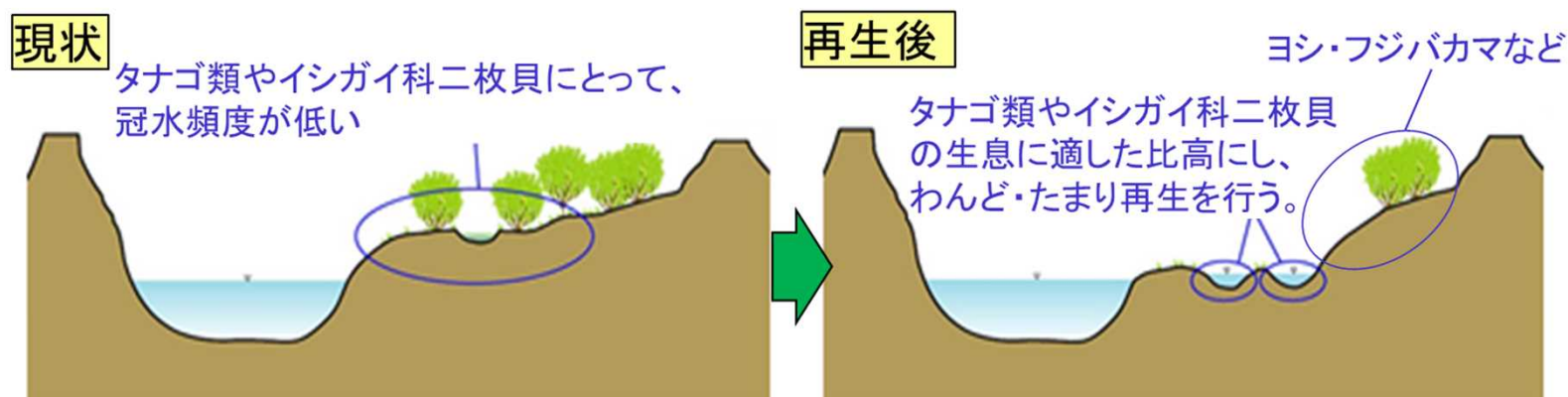
人為的な改変の「副作用」である樹林化によって消失した生物の生存基盤「瀬・淵、わんど・たまり、礫河原」を再生することにより、生物の多様性の維持、回復を図る計画書。

○目的

川と人との関わりが深かった頃に存在した昭和20～40年頃の加古川を目指して、多様な動植物の生息・生育・繁殖環境となる生存基盤、河川の上下流や流域との連続性の再生を行う。(現在、わんど・たまりの再生を実施中。)

○わんど・たまりの再生イメージ

「切り下げ」、「拡幅」、「樹木伐採」により冠水頻度を高めることで、再生を行う。
 なお、植生構成は、ヨシや加古川固有種であるフジバカマ等を基本とする。



1. 背景

■フジバカマとは？

○概要

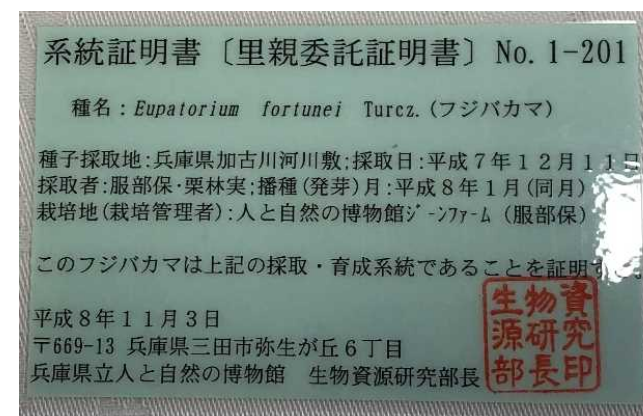
- ・キク科ヒヨドリバナ属の多年草
- ・氾濫原に生息
- ・秋の七草のひとつ
- ・8-10月に開花
- ・万葉集や枕草子等に登場
- ・乾燥させると桜餅のような香りを発つ



フジバカマ

○現状

- ・日本全体で6,000個体(15河川)
環境省RL : 準絶滅危惧種(NT)
兵庫県RDB:Bランク
- ・近畿圏内では、**加古川水系**、揖保川水系、
円山川水系のみ
- ・加古川産のフジバカマは、奈良県や大阪府へ
提供。
- ・加古川産のフジバカマの提供時には、系統証
明書を発行し、管理。



加古川産フジバカマの系統証明書

1. 背景

■元号「令和」の出典となった歌にフジバカマが登場

「万葉集」の梅花の歌、三十二首の序文

初春の令月にして、気淑く風和ぎ、
梅は鏡前の粉を披き、**蘭**は珮後の香を薫す。

- ・「蘭」はフジバカマを指す。
- ・万葉の高貴な人々は乾燥させたフジバカマを小袋に入れて腰の帯につけていた。



フジバカマの香り = 『**令和の香り**』



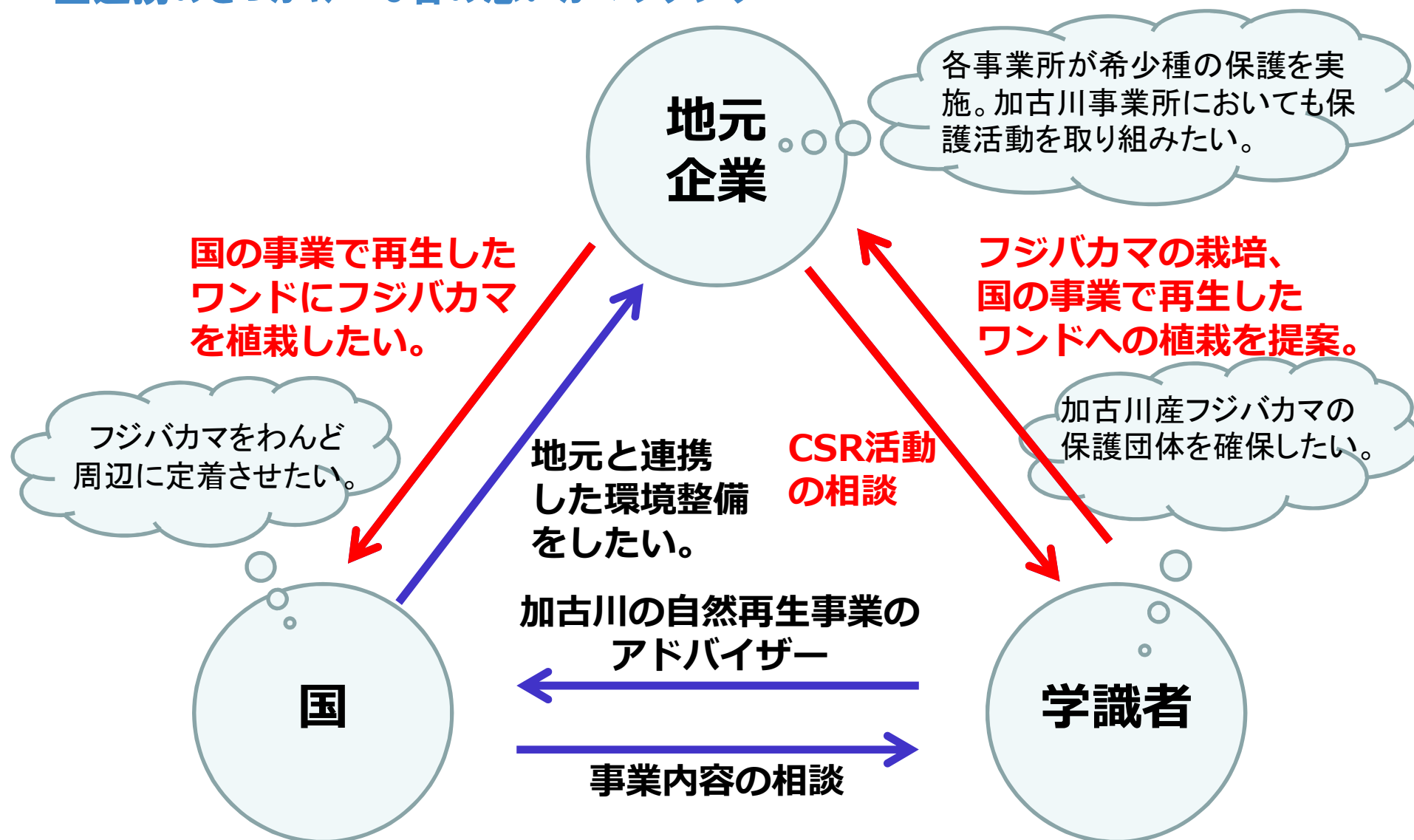
加古川の自然再生事業でのわんど・たまりの再生の実施だけではなく、
わんど・たまり周辺への加古川固有の「フジバカマ」の再生も必要。

■今回の発表内容

- ・地元企業のCSR活動や小野市・地元団体と国の自然再生事業との連携によるフジバカマの植栽。
- ・フジバカマの生息箇所環境条件の整理と結果を踏まえた今後の取り組み。

2. 地元企業のCSR活動との連携

■連携のきっかけ～3者の思いがマッチング～



2. 地元企業のCSR活動との連携

■ 自然再生事業との連携内容

○ 植栽活動(平成26年度～)

毎年春に、地元企業の事業所で育てているフジバカマ30株程度を自然再生事業により再生したわんどへ植栽。

○ フジバカマ観察会の開催(令和元年度)

わんど周辺に植栽したフジバカマの観察。

○ フジバカマの株の提供(令和元年度～)

小野市及び加古川商工会議所に所属する企業への提供。
→「3. 小野市・地元団体との連携」のきっかけに



平成26年3月 神戸新聞(朝刊)



植栽の様子



植栽されたフジバカマ



定着が確認されたフジバカマ

3. 小野市・地元団体との連携

■小野市・地元団体と連携したフジバカマの植栽

- ・自然再生事業として令和元年度に再生したわんど・たまり周辺に小野市・地元団体と連携し、フジバカマの植栽を実施(20株)。
- ・地元団体がフジバカマの維持管理(草抜き・水まきなど)を徹底的に実施しており、9月には、約1.5m程度の高さとなり、開花も確認。



3. 小野市・地元団体との連携

■フジバカマの植栽による効果

○「海を渡るチョウ」として有名なアサギマダラが飛来。



大きさ:40~60mm
分類:タテハチョウ科 マダラチョウ亜科
分布:東アジア、東南アジア
その他:春に北上、秋に南下
生態は解明されていない
フジバカマへの飛来報告が多い
優美に羽ばたく姿が人気



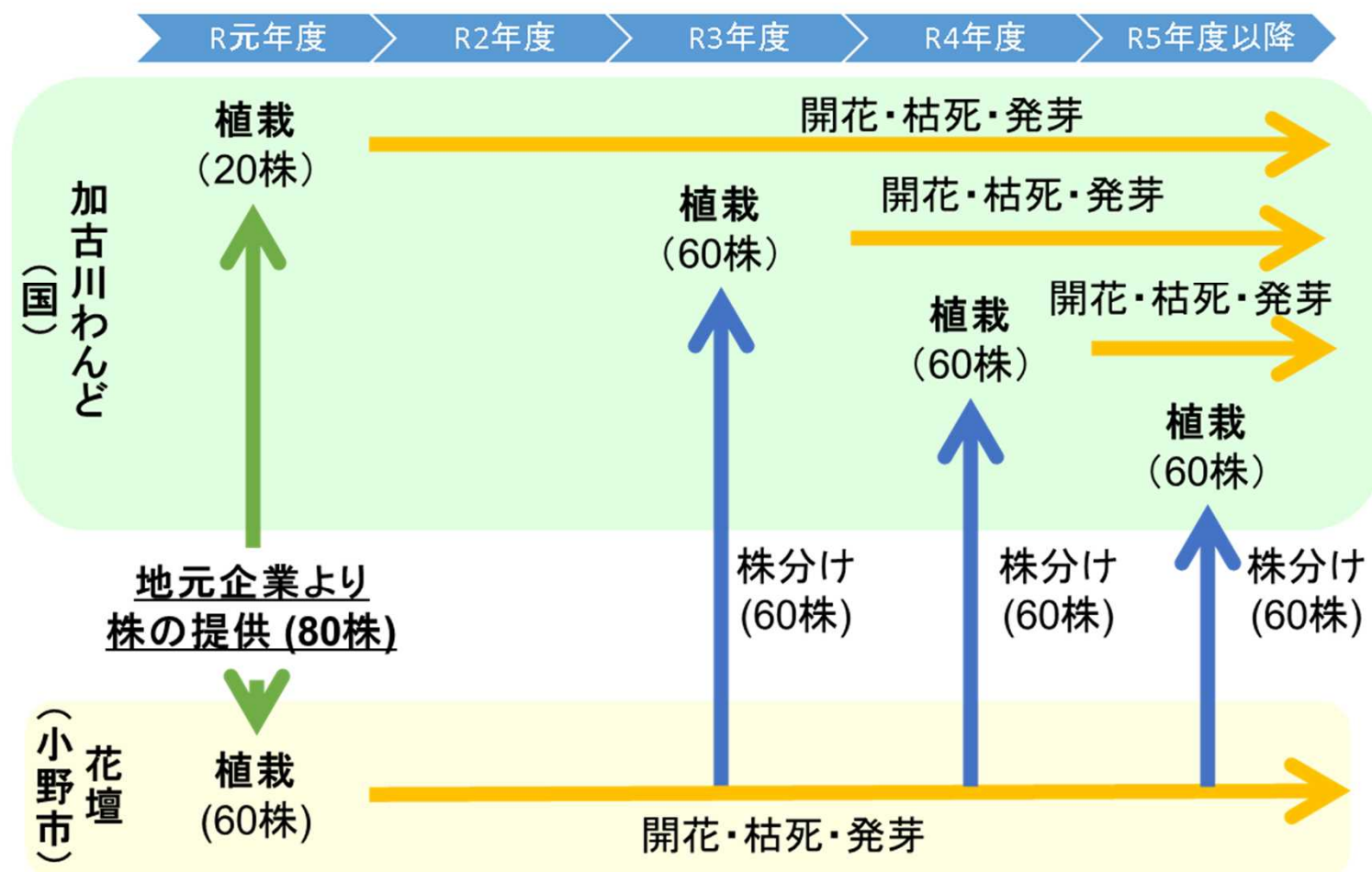
サギマダラ飛来が
確認されつづければ...

アサギマダラの観察会やマーキング調査等の開催
地域振興にも繋がる可能性がある。

3. 小野市・地元団体との連携

■ わんど周辺のフジバカマ定着にむけて

- ・今後も、小野市内にある花壇から株分けを行うことで、わんど周辺にフジバカマの植栽を実施し、わんど・たまりの再生を行う予定。



3. 生息地の環境条件の整理

■はじめに





- 現在、加古川(直轄管理区間)では、フジバカマの生息を4箇所を確認。
- フジバカマの植栽の実施は、フジバカマの適正地で行わなければ、他植物との競合等により枯死する可能性がある。
- 今後の植栽や自然再生事業に活用するため、生息箇所の環境条件の調査を実施した。



フジバカマの生息地

3. 生息地の環境条件の整理

■ 調査結果

	現場	株数	地形(比高)	土壌	土湿	日当	備考
自生地 A		5株	高水敷 (1.8m)	壤土、 石	適	中陰	過去から確認 一部枯死したヤナギ が被覆 開花なし
自生地 B		5株	緩斜面、 低水路 (1.1m)	壤土、 岩盤	適	陽	昨年度初確認、 一部ツル植物が被覆 一部開花
植栽地 C		50 株以 上	緩斜面、 低水路 (1.2m)	壤土	適	陽	植栽箇所(地元企 業) 被覆なし 開花
植栽地 D		50 株以 上	平坦地、 低水路 (2.3m)	壤土	適	陽	植栽箇所(小野市) 水やり等あり 被覆なし、 開花

生育環境が持続される

比高1.1m~2.3m

被覆が開花
に影響

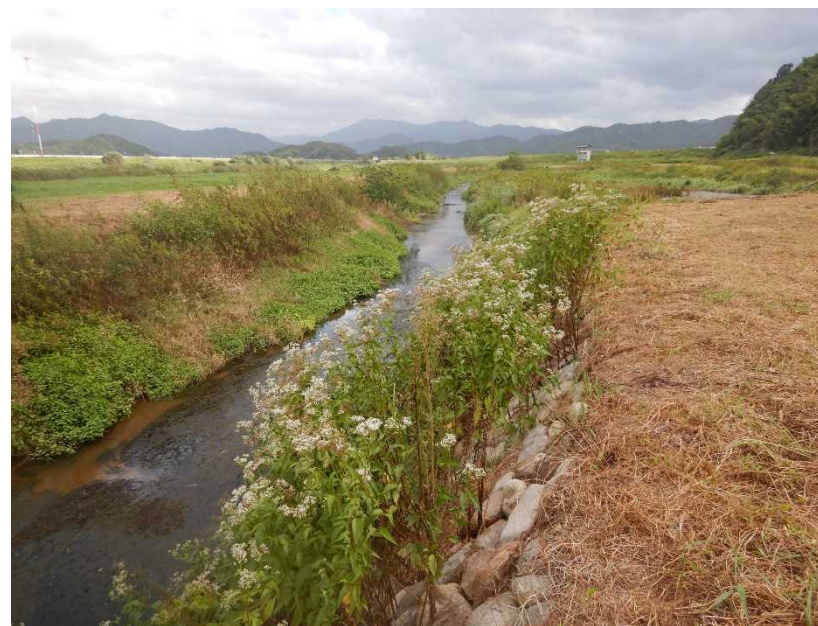
4. フジバカマの生育地保全に向けて

■今後の対応

- 調査結果を踏まえ、以下の条件に基づき地元等と連携した植栽、学識者と連携したモニタリングを実施予定。
 - ・様々な比高の場所(1.0~2.0m程度)(複数の冠水頻度を設定し、評価す)
 - ・植栽後に土壌を石で覆う。(周辺への外来種等の侵入・生育防止)
- また、水理特性についても把握を行い評価を行う予定。



断面イメージ



加陽湿地での事例